

## 平成29年度 第1回総合教育会議議事概要

日 時：平成29年5月22日（月） 午前10時30分 ～ 午前11時30分

場 所：名張市役所2階 庁議室

出席者：名張市長 亀井 利克

名張市教育委員会 上島 和久教育長、福田 みゆき委員、松尾 真由美委員、  
瀧永 善樹委員

《事務局》総括監 岩崎、総合企画政策室長 山下、総合企画係長 梶本、

教育委員会事務局次長 高嶋、教育総務室長 内匠、教育総務係長 福本

欠席者：名張市教育委員会 川原 尚子委員

### ○事務局より

まず初めに、川原教育委員が本日、体調不良により急遽欠席となりましたのでご報告いたします。

次に「名張市総合教育会議運営要領」の一部改正について、ご確認いただきます。本年4月の市組織の見直しにより、総合企画政策室が市長直轄の部門となり、名張市総合教育会議運営要領 第7条の（事務局）を「企画財政部総合企画政策室」から「総合企画政策室」に改正いたしたいと考えています。この点につきまして委員皆様のご承認をお願いします。

（→各委員より承認を得る。）

### ○市長あいさつ

皆様おはようございます。お忙しい中、今年度、第1回目の総合教育会議にご出席いただき、委員の皆様には御礼申し上げます。

今年度、新体制での初の会議で委員の皆様方には引き続きご指導とご高配を賜りますようお願いいたします。これからの教育委員会の事業は、名張市政の中でも中心において、やっていかなければならないものばかりになってきています。今日の議題にもありますが、小中学校の規模・配置の適正化の問題、空調設備整備と中学校給食導入の推進、小中一貫教育の5歳児を義務教育化する取組、コミュニティスクールと放課後子ども教室を一体的に取り組む課題、さらには、国民体育大会が2021年に開催されます。名張市は会場として、ホッケーと弓道、成年の男子軟式野球等を開催いたします。それに向けた施設整備、体制整備等の課題もあります。これらのことは、教育委員会だけでは出来ませんのでオール市役所として取り組んでいかなければなりません。そういった体制づくりもこれからして行かなければなりません。引き続きのご協力をよろしくお願いしたいと存じます。

昨年11月13日に「名張市地域福祉教育総合支援システム」を立ち上げ、教福連携サミットとしてキックオフ大会を開催いたしました。それ以来、17回のエリア会議を開催しています。国・県の関係機関、警察等もかなり協力的で、17回の会議でいろんな事例が出て

きており、その対応策を講じているところですが、それだけで終わらず、仕掛けをしていかなければなりません。今までの懸案、まちの保健室で持っている懸案もあります。その解決に向けて、エリア会議等を開催していかなければならないのですが、今3名のエリアディレクターがおりますが、これは兼務です。これが限界です。今まで「こういう事例が出てきた、さあ集まれ」ということでしたが、これからは、積極的にこちらから仕掛けていき、懸案の解決に向けた取組をしてもらわなければなりません。その場合、兼務を外すか、もっと増やしていくかということになりますが、今年度内に判断していかなければならないと思っています。国もいよいよ教福連携が始まってきており、この取組をこれからさらに深化発展させていかなければなりません。いずれにしても、名張市は、「産み育てるに優しいまち 教育のまち」をこれから大いに発信していかなければなりません。引続きのご指導ご支援ご協力をお願い申上げまして、第1回の総合教育会議にあたり、当方のごあいさつとさせていただきます。よろしくお願ひします。

## ○教育長あいさつ

本年、第1回目の総合教育会議におきまして、ごあいさついたします。

平成27年4月から地方教育行政法の一部が改正され、新しい教育委員会制度がスタートしたところです。名張市も本年4月から新制度をすべて導入いたしました。総合教育会議については、平成27年度からすでにスタートしており、本年4月に初めて市長より辞令交付をしていただき、教育長に任命していただいたところです。

先日、奈良市で全国都市教育長協議会が開催されました。その折、様々な教育に関する課題が山積している中、「今こそ市長部局と教育委員会がきちんと連携協働をしていながらやっていかないと日本の教育は、立ちいっていかないと」と各市の教育長様方と議論を交わしてきたところです。その中、単なる教育長と教育委員長を合体させた新教育長と言う名前だけではなく、リーダーシップを発揮し、市民の為に、また教育行政の進展のために精一杯の力を注いでいきたいと思っています。大きくは教育環境整備、もう一つは教育内容の充実という大きな2つの柱をもって進めていきたいと思っています。特にハード面におきましては、いろんな面での施設整備、さらにはICT整備も名張としては遅れているところです。これからの予測不能な社会を「どうやって子どもたちにその時代にあった力をつけさせていくか」ということが問われるところで、まさにICTということについては避けては通れないところです。方策をしっかりと皆様方と協議させていただきながらやっていかなければならないと思うところです。第二次名張市子ども教育ビジョンに掲げてありますとおり、これも絵に描いた餅ではなく、きちんと実践充実していくことによって、はじめて評価も受けるところではないかと思ひます。大きな点としましては、小中一貫教育、そしてコミュニティスクールの一体化をできるだけ早くやっていくことが非常に大事なことであり、国もコミュニティスクールについては、本年4月から努力義務としたところです。名張市では二つとも国のモデル事業を受けてやってきたところで、名張市がやっていこうとしているこ

とは、まさに国が逆に後追いのような形になっています。これが本当にいい結果を出せるように頑張っていかなければならないと思います。子どもたちがどんどん減っていく中、なんとか名張の良さをしっかりと理解し、そして広めてもらう、あるいは将来の名張のリーダーとして子どもが育っていく力を付けていかなければならないというところですが、10年先から20年先を見た時に本当に今ある仕事の多くは無くなっていく。「本当にこれからはなくなる職業は何だろう」、「残る仕事は何だろう」ということを考え、先を見据えたことをやっていかないと力が付いていかないと考えます。

名張市として、教福連携のシステムをやっていくことは、今の時代では、これは避けては通れないと思っています。特にこれからの時代の中で、ひとりひとりの子どもを大切に、個性を伸ばす、あるいは子どもにおける教育格差を解消していくが、子どもたちの幸せに繋がることであるとともに、予測不能で困難な時代を生き抜く力を身に付けていく本当の意味での生きる力を蓄えていかなければならないと思っています。様々なことがあります、それをひとつひとつクリアしていくことも非常に大事なことです。選択と集中という形の中で優先順位をつけて成果を出していくことが戦略的なマネジメントではなかろうかと考えています。キーワードは「変化」、そして「特色」を出しながら、それを生かしていく。「名張の売りは何なのか」、攻めの教育行政を進めていくためにも、目的目標を明確に示しながら、まずはきちんと内部を固めていきながら、情報を発信していくというように考えています。

最後に3月31日に新しい学習指導要領が告示されました。このキーワードは「社会に開かれた教育課程」です。これからは学校として、そして家庭と地域が一体となってやらなければなりません。そのためには、情報をきちんと発信する。そしていろんな声をきちんと掴み、それを活用してもらう。そのためにも、協力体制を取っていかうということですので、どうぞよろしく申し上げます。甚だ簡単ではございますが教育長就任に関しましてのあいさつに代えさせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。

## 1. 小中学校の規模・配置の適正化後期実施計画の現状について

(事務局より説明)

(市長)

事務局からの説明について何かご意見、ご質問はございますか。

(教育委員)

事務局から説明いただきましたが、発表してから1年3か月が経ち、なかなか地域とは前に進んでいないのですが、後期計画に平成32年度までの5年間と示してありますが、地域の方と協議をしないと進まないで、目標年度が少し超えることがあってもじつくりと地

域の方とお話を進めながら、一歩ずつでも前に進んでいかないと硬直状態で止まったままでは、仕方がない。統廃合とは別に考えましても、桔梗が丘中学校については、今、大変手狭でありクラブ活動もなかなか満足に行えないような状況になっています。桔梗が丘高校が来年度で終わることを考えますと、まず第一歩として桔梗が丘中学をそちらの方へ移すというようなことも構想の中に入れながらもう一度考えていただくということを個人の意見ですが思っています。

(教育委員)

今、各学校を訪問させていただいているところですが、大きな学校、小さな学校とも、先生方も子どもたちも、色々な問題を抱えながら、充実した学校生活を送られていると感じています。これは、今の限られた状況の中で最大限の努力をされた結果だとすごく感じています。そういったこともあり、統廃合の大きな問題は、やはり学校の負担なく、今いる子どもたちの学校生活に影響がないような形で準備を進めていく必要があるということを強く感じました。やはり優先順位というものが出てくるかと思いますが、具体的に一歩進めるにあたり、中学校単位ということを重視します。そのうち、桔梗が丘のいろいろな具体例が出ていくということもあるので、まずそこからという意見をもっております。

(教育委員)

いろんな会議の中で非常に取組が難しく、進捗状況が思わしくないと聞かせていただいています。適正計画については、その大前提はやはり崩せないと思います。ただ現状に合わせた修正をしていきながら、より現実的なものを考えていかなければならないと思います。また、新教育課程が発表され、小中一貫教育の推進やコミュニティスクールの推進については、進めていかなければならないということもあり、そのことも鑑みながら、より現実的な方向で、少し時間がかかっても、やはり計画を押し進めていかなければならないと思います。

(教育長)

計画を策定し、前期計画は計画通りに進んだところですが、後期計画についても、先程、教育委員の皆様方がおっしゃっていただいた中では、「何のためにこの規模・配置適正化後期を実施していくのか」ということで、やはり「子どもたちのためにどうするのか」、「これからの教育を進めていく中で必要なことなのか」ということがあり、現状を見る中で子どもたちの数が減ってきている。これから進めようとしている学校教育が人数いわゆる量の面から見た時どうなのかということが問われてくることではないかと思います。また、その一方では、先生方の多忙が今、大きな問題となっているところです。本来の業務以外のところのものが大変多い。中学校の部活等の問題が大きく問題として出されているところです。

先生方が子どもたちに良い教育をしようと思ったらやはりきちんとしたその裏付けがないと出来ない。そのことを進めていくために先生方の状況をクリアすることも大事なこと

でやっていかなければならないと思います。やはり、急激な変化となりますと色々な問題がありますので丁寧の説明するとともに、皆様方の声を聞いて柔軟に対応できる場所にしていくべきではないかなと考えています。とりわけ、小中一貫教育、コミュニティスクールをやっていくことは非常に大事なことで、国も県もそういった方向を示しているところです。我々としてはその事を受けながら名張市としてどうするかということです。27年度後期から、つつじが丘小学校と南中学校は、そのモデル校としてやっているところです。28年度からいろんな交流をしてきたところですが、やはり先生方の打合せ時間、またそのことについての研修時間等がなかなか学校を離れて取りにくいということもあり、今年4月、つつじが丘小学校6年生の担任であった1名を南中へ、南中から1名を小学校へ異動することにより、小中一貫教育で会議をしなくても色々なことができるのではないかとということでスタートしたところです。先般、学校訪問で様子を聞かせてもらい、子どもの様子をみさせてもらって非常に良かったという評価をいただいています。今まででしたら、中学校新1年生の親や子どもからいろんな戸惑いや不安の声を聴いたところでしたが、6年生の担任であった先生がいることで親も子供も安心できる。すべてとは言いませんがそんな利点もあったという意見を聴かせていただいています。会議をしなくても、子どもに今日起こったことを話すことができ、伝えることができる。そのことによって、会議する時間も減らせるのではないかと思います。いろんなことを試していき、それを他の学校でも今後検証していかなければならないと思っています。

(市長)

方向性としては、ぶれていないわけですが、手法、基準については、もうしばらく検討の余地があります。最終的には、私が一定の判断をしていきます。それまでにできる限りの議論はしていかなければなりません。判断基準は何かと言うと、学習者起点でこれがよいのか悪いのかの判断となるが、地域が反対の中でそれを「えいや」でやっていくのは避けなければなりません。ご理解をいただけるような活動をしていかなければならないと思います。

教職員の過重な労働ですが、これはもうあらゆる分野に起こってきています。これは、医療・介護分野もすごいです。2014年に私も関わり、19の法律を改正した「医療介護総合確保推進法」という一括法がスタートしました。これの狙いは何かと言うと、医療と介護にもっともっと住民参加していこうということであり、これはご当地医療、ご当地介護をその自治体を中心になって行なっていく地域包括ケアシステムが主体で、教育にあってもご当地教育というのが絶対必要であると思います。名張市がこれだけのソーシャルキャピタルの醸成がなされているが故にこれだけのご当地教育がなっていく。これは、昨年も表彰を受けた百合が丘小学校がまさにその事例としてありますが、それぞれの地域には、それぞれのご当地教育があってもよいと思っています。それは、どんな形で住民が参加していくかということがコミュニティスクールであります。それは一定ではなく、それぞれのご当地のやり方が違って良い訳で、これは絶対進めていかなければなりません。それによって百合が丘

小学校の場合は、教職員の負担というのも一定軽減されているという面もあります。これらを注目して、ご当地教育というものを進めていく。この際、余談ではありますが、ご当地教育の関連でもありますが、昨日、県立草の実リハビリテーションセンターと県立小児医療センターあすなろ学園等が統合して、「三重県立子ども心身発達医療センター」が開設されました。このことによって、転入者が増えてくることが予想され、各小中高校への教員の加配が必要になります。最終は地域へ戻ることが予想されるため、地域医療介護にきちんとした仕掛けをしていかなければなりません。施設の中で育て、地域に最終は戻るソーシャルキャピタル体制をきっちりつくっていくことを同時にしていかなければなりません。体制を整える仕掛けづくりが必要です。ある一定の地域への支援なくしては、いい学校は出来るはずはありません。ある一定の理解を示していただきながら進めていかなければなりません。

方向性についてはそういうことで、今、報告があったということにとどめます。

(教育長)

一年が経ち、早く次なるものを待っている子どもたちや保護者がいるので、それにこたえていくためにも今まで以上に鋭意、努力をしていかなければなりません。また、やはりいろんな柔軟な形のなかで、できるものと、曲げてはいけないことをきちんと仕訳しながらやっていく。とりわけ、桔梗が丘の問題と薦原、箕曲の問題は、若干違うところがあります。共通する部分と違うところをそれぞれに合った形のなかでやっていく。そしてトータルで先ほど市長もおっしゃっていただいたようにやはり地域に合ったコミュニティスクールをなるべく早く立ち上げてやっていく。そのことによって、桔梗が丘の適正化にも繋がってくるというようにもっていきたいと思っています。

今まで以上に教育委員さんにも場合によっては出てもらい、なるべく早く次のステージに繋げていかなければならないと思っております。

## 2. 名張市学校施設設備の方向性について

(事務局より説明)

(市長)

事務局からの説明について何かご意見、ご質問はございますか。

(教育委員)

空調設備整備につきましては、もう既に今年5月に25度を越えており、今週、子どもたちは、運動会を控えております。熱中症の心配をしなければならない状況です。予算の問題もありますが、一刻も早く計画をして、空調設備の設置をぜひともお願いします。予算も伴いますが、2年3年以内には設置をお願いします。

(教育委員)

空調設備については、着々と進めていただきありがたく思っています。

暖房については、暖かい環境で授業をすることは抵抗なく受け入れられるが、熱中症の話の聞くと高齢の方は、冷房が贅沢だという思いを持っている方もいるようですが、そういうレベルを超えた環境ということであり、できる限り早急をお願いしたいと思います。

(教育委員)

委員の皆さんが言われるとおりで、現場にいた時も大変でした。1日も早くお願いします。

(教育長)

「学習要領」が改訂され、授業数が増えました。学校での時間が長くなる。普段、子どもたちは、ほとんどがクーラーの効いた家で過ごしていることが多く、昔でしたら家になくても学校にあったが、今は逆であり、家にあっても学校にないということが多い中では、本当に子どもたちが学校へ行きたくなるような、そういう体制を整えなければなりません。また、中学校給食については、一部の生徒が弁当の注文をしているところですが、実は3月中旬に1業者が急に撤退し、今までの形で出来なくなり、値段が上がり、種類が選べなくなったために苦情が増えました。弁当を注文している生徒は、多くはありませんが、やはり弁当を作ってもらえない子どものためにきちんとやっていかなければなりません。貧困のために子どもにしわ寄せがいかないようにどのようにしていけば良いのか。

センター方式の導入をうたっているところでございますが、これも経費の掛かることであり、学校現場に置きましても、過密な日課表の中でこれをこなしていくことは難しい。何より安全安心を求めていかなければならないことでもあります。さらには、どの学校も校舎が非常に古くなってきており、壁ひとつにしろ、ぼろぼろで、いつ落ちてくるかわからない状態の所も中にはあり、応急措置をしています。もう少し環境の面で充実させていかなければならないし、トイレにつきましても、新しくできたところの子どもたちの気持ちは全然今までとは違うということを聞かせてもらっています。きれいになったトイレを使う子どもたちとそうでない学校の子どもたちの差は自ずとあるのかなと思っています。いずれにしろ、喫緊の課題ばかりで、経費の掛かるところで、市長からも「何か良い財源を探すように」と言われているところですが、すべてのこの施設整備につきましても、全庁的な形をお願いしたいと思っております。

(市長)

これは、スピード感をもってやっていかなければなりません。

この空調設備整備もですが、議員さんの中でも「大判振る舞いをするな」と言った方もおりますが、これは喫緊の課題であり、あれだけの人数が体調を崩しているので、早く今年度中に設計し、来年、再来年の2か年で行い、その次にはもう、その翌年には、中学校給食のための施設整備を完成させなければならぬと思っています。同時に、できる限りトイレ等の長寿命化を含めたものも並行してやっていかなければなりません。これから、教育ばかりになってきますが、「ここが名張市の踏ん張りどころ」と思っています。名張市の15歳未満の人口は、転入が転出を上回ってきていますが、これから苦戦であると思われま。今までは、伊賀市や奈良県の近隣市町村からの転入者が多かったのですが、それももう限界であり、これから、もっと京阪神からの転入促進のための情報発信をしていくためにも、きっちりとした整備をかなりのスピード感をもって、今頑張っていると思っています。

(教育委員)

学校で大便が出来ずに、家に帰ってからしか出来ない子どもがいます。子どもの時から便秘になってしまいます。トイレの件については、よろしく願いいたします。

(教育委員)

設備改修後の学校の子どもたちと改修予定さえない学校の子どもたちとの様子は明らかに差が感じられます。掃除についても新しいうちは、丁寧にする子どもの姿がみられます。学校訪問している中、環境が変わることによって、子どもの心も変わってくるのを体感し、格差が大きいことを感じましたので、よろしく願いいたします。

(市長)

授業参観に行った際に学校の廊下側の窓を開けているときが見られるが、子どもが寒さに強いのか、それともインフルエンザの防止で空気をこもらしたらいけないのか。

(教育長)

養護教員から窓を閉め切るだけでなく、空気換気をすることを指導している。冬場でも外に出て、子どもたちが運動をして、体を動かすように現場で指導している。

(教育委員)

逆に最近の子どもたちは、暑さに弱い状況です。さらに夏場は、学校の1階と3階で気温差が相当あります。



(教育委員)

別の話になりますが、最近、学校の奉仕作業がままならない状況になってきています。

学校の環境整備の奉仕作業において、草刈機を持ってきていただける保護者が減ってきており、除草作業が成り立たずに、校長、教頭等の管理職が区長さんと一緒に草刈作業をしている現状です。また、除草した草を運び出す軽トラックの確保もままならない状況です。

(市長)

ご当地教育の一步かなと思いますが、草刈に慣れてない方が草刈機を操作した際に怪我をされないかが心配です。

## その他

(事務局より)

今年度の総合教育会議の開催は、本日の会議を含めまして、年3回程度を予定しております。開催時期につきましては、第2回を10月から11月頃、第3回を来年2月頃の開催を予定しております。開催が近づきましたら、開催のご案内をいたします。なお、臨時の開催が必要となる場合には、別途開催させていただきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

(教育委員)

国体について今、教育委員会の市民スポーツ室で事務局をおいて進めていますが、市内だけでなく日本全国から来られることとなりますので、オール市役所での対応でよろしく申し上げます。

(市長)

それでは、これで本日の会議を閉じさせていただきます。